

備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
 そなえる…用意する、そろえる、用心する
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
 そなえ…したく、用意、警戒、防衛
 備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。
 そなわる…準備ができる、身に付く
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナシク

no. **29**

かわさき
防災広報紙

昭和62年1月1日発行
 発行●川崎市
 編集●土木局防災対策室
 〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
 TEL.(044)200-2111内線2841



準備年

昭和六十二年
 元旦

謹賀新年

◆ 昨年中はいろいろご協力いただき、ありがとうございました。皆様まわそろいで、よいお年をお迎えのことと存じます。

◆ 本年もまた、昨年同様〈家内安全〉であるよう、お祈り申し上げます。

◆ さて、昨年十一月の伊豆大島の噴火を見るにつけても〈大自然の猛威〉をあらためて思い知らされ、その影響は、三度の食事から鉛筆一本にいたるまで、実に広大な範囲に及び、深刻な問題を提起しました。生活の場を奪われることが、いかに〈不自由〉であり、私たちの毎日の生活が、いかに多くのものに依存しているかを再認識された方もいることでしょう。

◆ 家族をろって新年を迎えたいこそ、いざというときに備えて、家の中を見直し、今年一年の〈防災への心がまえ〉を新たにしたいものです。

◆ 本年もどうぞよろしく願います。

昭和六十二年 元旦
 川崎市

1987 1 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

★ 毎月15日は川崎市民地震防災デーです ★



宮城県沖地震による被害

ひとりひとり、備える。

わが家の安全、みんなが主役

家族みんながそろったところで、地震が起きた。そのときのことを話し合ってみましょう。たとえば――●地震の実例や被害の状況など ●警戒宣言が出たときの心得 ●地震が起きたときの心得

そして、いざというとき、あわてないために、以下の点について、確認し、はっきりと決めておきましょう。

- 家中で、どこがいちばん安全か
 - 火を使う器具の安全点検、消火器のチェック、救急薬品の点検整備は、だれがするのか
 - ガスの元栓は、だれがしめるか
 - 石油ストーブは、だれが、どうして消すか
 - 幼児や老人の避難(安全)は、だれが責任をもつか
 - 避難場所は、どこか、どの道を通っていくのか
- ※あなたの住んでいる環境によって最もよい方法を選ぶことが必要です
- 家族がはなればなれになったときの連絡方法と最終的におち合う場所はどこか
 - 避難するときの持ち物は、だれが何を持つかをきめておく
 - 非常持出袋は、どこに置くか
 - 昼の場合と夜の場合の家族の行動をはっきり決めておく



宮城県沖地震による被害

地震の心得

「まず、わが身の安全」

あわてて外に飛び出すと、落下物により負傷するなどして危険です。どんなに大きな地震でも、大きな揺れは1分程度といわれています。あわてないで、周囲の状況をよく確かめ、落ち着いて行動しましょう。



話し合いが終わったら、家の内と外の安全点検を行いましょう。

○家具などの転倒防止

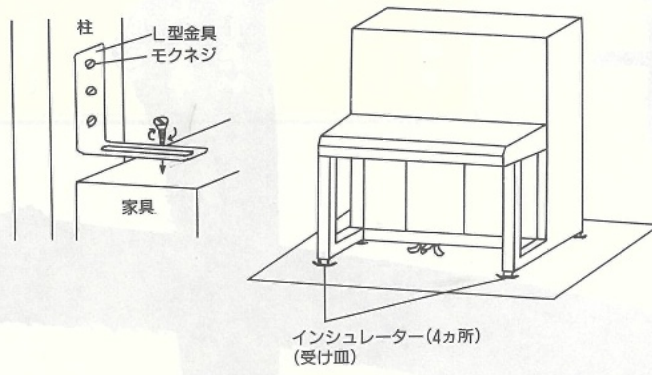
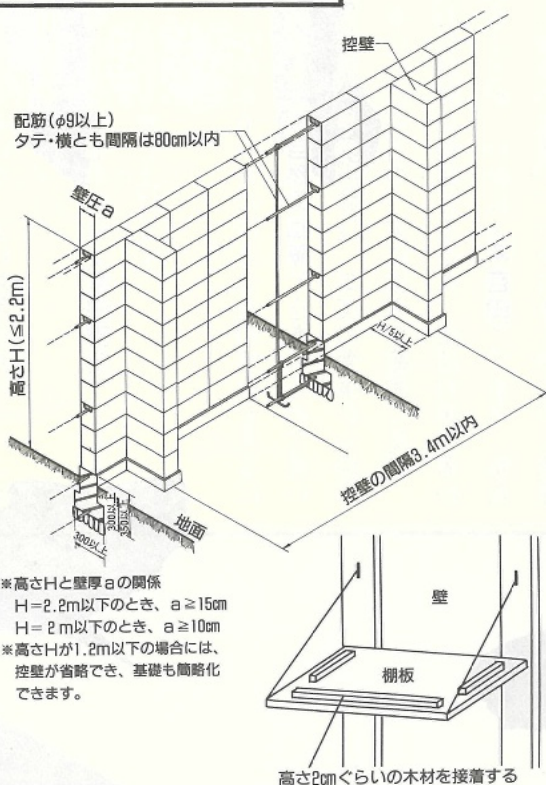
地震のとき倒れるものをチェックしましょう。特に、タンス、食器棚、ピアノ、冷蔵庫は、危険!

○落下物の点検

宮城県沖地震のときは、①棚の上の物の調度品③水そう・置き物④額ぶち⑤照明器具が落下しました。

○ブロック塀の倒壊防止

ブロック塀の下敷きになると、骨折、打撲などの重傷を負ったり、死者を出すこととなります。また、道路をふさぎ、避難・消火等の障害にもなります。



インシュレーター(4カ所)(受け皿)

『もうすこし、まちなさい』

まちなさい

わたしは、じしんのあった日、夕がた、おばあちゃんに、「おさん歩に、行こう、行こう。」と、せがみました。おばあちゃんは、「それでは、しかたがないから、かりのさんのうちに、行きましょう。」と、いきましたので、わたしは、うれしくなりました。

うら道を、おばあちゃんと、手をつないでのはるとき、夕日がさして、あつかったです。かりのさんのうちについたら、かりのさんのおばあさんが、「さつき、かるいじしんがあつたんですよ。」と、いきました。

わたしの、おばあちゃんが、「歩いたけど気がつきませんでしたよ。」と、いきました。

それから、おみやげをだしました。しばらくたつと、ガラガラと、おうちがゆれました。わたしは、こわくておばあちゃんにすがっていました。

かりのさんが、「だいいいよ。」と、「だいいいよ。」と、いって、かりのさんのおばあさんが、わたしの手を、つよくつかんで、ガラス戸

をあげました。そのとき、前のうちのおにわが、がけの下にくずれました。男のこがじてんしゃで、見にきました。わたしは、「かえる。」と、いったら、「もうすこし、まちなさい。」といわれて、しずかになってから帰りました。

とちゅうのかいだんに、ブロックべいが、くずれてこわれていました。おばあちゃんと、わたしがびっくりしました。

わたしは、じぶんのうちへははしっていきませんでした。おうちにはいって、たんすがたおれていました。じゅうたんに、ウイスキーのびんが、おちて、あるけませんでした。

ウイスキーのびんがこわれて、ウイスキーのにおいが、プンプンにおいしました。すこしたつと、おにちゃんが、友だちと帰ってきました。それから、おばあちゃんが、おうちがしんばいで、いそいで緑ヶ丘のうちへ帰りました。

おにちゃんが、ラジオをききました。つなみがこないのではありませんでした。

※宮城県沖地震
 昭和五十五年八月十二日午後五時十四分発生
 震源・宮城県沖、マグニチュード7.4、死者27



「毎月15日は、市民地震防災デー」

ご存じですか? 毎月15日は市民地震防災デーです。南部防災センターでは、つぎのような訓練・学習をすることができます。

- ◎消火マスターによる消火訓練
- ◎地震のメカニズムなどの学習
- ◎地震体験装置による地震体験
- ◎映画など視聴覚器材を利用したの学習
- ◎家具などの固定方法の学習
- ◎炊き出し袋による炊き出し訓練
- ◎非常持出コーナーなど各種展示物での学習

市民地震防災デーには、火の元の総点検・家具類の転倒防止・非常持ち出し品の確認と、いざというときあわてないように家族みんなで地震のときの役割などを話し合っておきましょう。当施設を利用して、「市民地震防災デー」に取り組んでいただきたいと思います。

◎ご利用、ご見学のお問い合わせは
 川崎市南部防災センター
 川崎市川崎区小田7-3-1 TEL355-2175
 交通=国鉄川崎駅中央口14・21出入口1番のりば 臨港バス富士電機行き小田小学校前下車徒歩6分